

鈴木滋(すずきしげる)先生のプロフィール

母校・岩手医大の麻酔科副手の後、
筑波大学附属病院創設期の内科系レジデント、
磐城共立病院麻酔科6年、
県西部浜松医療センター麻酔科12年を経て
7年前にさくらクリニック開業(浜松市)。

麻酔指導医、ペインクリニック専門医、東洋医学専門医等
もっていますが、毎日クリニックで患者さんと
漫才をして楽しませてもらっています。

ここ5年ほど警察協力医として、昼夜を問わず亡くなった方も
診させていただいております。

専門科目・領域は内科、麻酔科、ペインクリニック。



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

1979年頃、磐城共立病院(いわき市)の麻酔科外来(ペインクリニック)での
洋薬としての鎮痛剤の限界を感じて漢方の導入を模索していたところ、
T社主催の漢方講座で、今はなき鉄砲州診療所:木下繁太郎先生の
講義に触れてからです。

今でも先生の記された【漢方の基礎と臨床】を色々迷ったときに紐解いています。

三叉神経痛(ジャンetta術も施行し再発例)で、特効薬テグレトールが
薬疹のため投与できず、早速木下先生の講義で知った五苓散を投与し、
これのみで疼痛が激減した症例を経験し、
患者さんに非常に感謝されたことは今でも印象深く記憶に残っています。

これ以来漢方に取り憑かれ今日に至っています。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

私はどうしても様々な痛みや不安を基盤にする疾患患者さんが多いため、
特に慢性疼痛に至った症例等、例えば带状疱疹後神経痛例で、
痛みのみならず、食欲快復、全身倦怠がなくなる等
洋薬にない効果もしばしばで、これは内科疾患で風邪の後処理としても
応用し、効果を発揮しています。

洋薬の副作用(NSAIDの胃炎・胃潰瘍)や多種類処方軽減にも
役立っています。



◆ 普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

漢方薬:西洋薬=1:4くらい。併用になると3分の1くらいになりますでしょうか。
漢方薬は殆どエキス剤です。

副作用の少ないいわゆる上品を用いるのが基本と思っています。
そのかわり多少効果が少ない傾向にありますので、併用も多いでしょうか。

◆ 10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

10年前と比べても漢方医療の普及はまだまだ広まってもよいのではないかと思います。
【うしぐるまじんきまる】と読めない牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)ですから、
一般の方に啓蒙するにはこの点をクリアにするのも今後の課題でしょうか。

◆ 先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

毎年のように経験しますが、風邪でかなりの頭痛に、葛根湯と附子剤の併用で
頸から頭の雲が晴れるように痛みが取れる時。

ジョギングのしすぎで、下肢の痙攣発作に苦しむ(コレはいわゆる腓返りで、夜間に起きたときは
辛いですね。)時の芍薬甘草湯の効果。

予防的に内服しても効果あること。

また私は肥満体質なので、証から防風通聖散を服用し、確かにある程度減量を実感しましたが、
やはり断酒にはかかないませんでした。

◆ これから漢方医を志す方に一言お願いします

医療情報の氾濫(マスコミに責任の一端あり)に惑わされず、
信頼できる漢方を用いる先生と共に治療に当たって欲しいと思います。

◆ 座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

HASTE NOT, REST NOT (INAZO NITOBE)、盛岡市の公会堂多賀
という由緒あるレストランに掲げてある新渡戸稲造先生の額です。

怠け者の私にはぴったりで、嬉しいですね。
NOT HASTE, NOT RESTでないところも先生らしく優しいですね。



注意:先生へのインタビューは、当会が2003年8月に行った内容です。